

2026/12期Q1決算は増収、最終損失縮小で経営改善の進捗が示唆される

サマリー

2026/12期Q1実績

2026/12期Q1のフロンティア・マネジメントは、コンサルティング・アドバイザー事業の一部苦戦を投資事業の拡大で補う構図となった。中期経営計画初年度として、経営コンサルティング、M&Aアドバイザー、再生支援を組み合わせたワンストップ型支援を推進したほか、投資子会社であるフロンティア・キャピタル株式会社では新たに1件のハンズオン投資を実行し、累計投資先は8社へ拡大した。

コンサルティング系事業では、人員数減少や案件環境の影響を受け、経営コンサルティングおよび再生支援が低調に推移した。この結果、コンサルティング・アドバイザー事業の売上高は1,974百万円（前年同期比17.2%減）、営業利益は91百万円（同51.4%減）となった。一方、M&Aアドバイザー事業は、注力セクターへの営業強化や体制拡充が奏功し、売上高は485百万円（同45.5%増）と大幅増収を達成した。投資事業では、経営指導料収入の積み上がりに加え、連結投資先の売上寄与により、売上高は1,401百万円（同1,348百万円増）と急拡大した。依然として固定費負担は先行しているものの、営業損失は83百万円と前年同期から改善した。

連結業績は、売上高が3,376百万円（同38.7%増）となった一方、利益面ではコンサルティング系事業の減益や投資拡大に伴う費用増が影響し、営業利益は8百万円（同84.4%減）にとどまった。ただし、経常損失および最終損失は前年同期比で縮小しており、経営改善の進捗が示唆される内容であった。

2026/12期通期見通し

2026/12期通期業績予想について会社側は据え置いている。M&Aアドバイザーでは、注力業界やテーマ案件への集中戦略が足元で成果を見せ始めており、今後の大型案件獲得動向が業績進捗の焦点となる。一方、コンサルティング事業や再生支援事業は人員適正化後の収益性改善が課題であり、下期に向けた案件積み上がりが注目される。また、投資事業におけるハンズオン投資先の収益寄与拡大も、中長期的な成長ドライバーとして注視したい。なお、SIRでは取材後にフォローアップレポートを公表する予定である。

百万円、%、円	売上高	YoY	営業利益	YoY	経常利益	YoY	当期利益	YoY	EPS	DPS
FY2023/12	10,025	26.6	1,251	37.8	1,238	34.4	780	40.2	67.50	41.00
FY2024/12	9,265	-7.6	-632	-	-710	-	-694	-	-59.20	-
FY2025/12	13,489	45.3	-335	-	-664	-	-1,106	-	-94.08	-
FY2026/12 (会予)	15,000	11.4	610	-	430	-	50	-	4.24	-
FY2025/12 Q1	2,434	12.7	55	-12.3	-74	-	-129	-	-11.02	-
FY2026/12 Q1	3,376	38.7	8	-84.4	-33	-	-81	-	-6.90	-

出所：同社資料より SIR作成

注：SIRでの財務データ処理は短信規定と異なるため記載数字は会社資料と相違することがある。

Q1 Flash



客員アナリスト 中西哲
research@sessapartners.co.jp



本レポートは当該企業からの委託を受けてSESSAパートナーズが作成しました。詳しくは巻末のディスクレイマーをご覧ください。

ディスクレーマー／免責事項

本レポートは対象企業についての情報を提供することを目的としており投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。本レポートに掲載されたデータ・情報は弊社が信頼できると判断したのですが、その信憑性、正確性等について一切保証するものではありません。

本レポートは当該企業からの委託に基づきSESSAパートナーズが作成し、対価として報酬を得ています。SESSAパートナーズの役員・従業員は当該企業の発行する有価証券について売買等の取引を行っているか、または将来行う可能性があります。そのため当レポートに記載された予想や分析は客観性を伴わないことがあります。本レポートの使用に基づいた商取引からの損失についてSESSAパートナーズは一切の責任を負いません。当レポートの著作権はSESSAパートナーズに帰属します。当レポートを修正・加工したり複製物の配布・転送は著作権の侵害に該当し固く禁じられています。



SESSAパートナーズ株式会社

東京都港区麻布十番2-8-14 i-o Azabu 5a
info@sessapartners.co.jp